

口頭発表 | 口頭発表：家政教育

2025年6月1日(日) 15:10 ~ 16:10 会場 (都市科学部講義棟107)

家政教育

座長：川嶋 比野 (戸板女子短期大学)

◆ 若手研究者ポスター賞エントリー

15:10 ~ 15:25

[3D-06]

人生100年時代のライフプランを考える教材開発

高校生を対象とした人生設計のためのアンケートを実施して

*両頭 早希¹、松本 歩子¹、延原 理恵¹、片岡 愛² (1. 京都教育大、2. 京都教育大附属高校)

15:25 ~ 15:40

[3D-07]

「責任ある行動」ができるエシカル・コンシューマーの育成

-高等学校家庭科におけるパフォーマンス課題を取り入れた実践とその効果-

*谷 昌之¹、大本 久美子² (1. 大阪府立天王寺高、2. 大阪教育大)

15:40 ~ 15:55

[3D-08]

地域連携型授業の導入と地域への効果-いちご学の創設

*山内 見和¹、真田 知恵子¹、仲田 郁子¹ (1. 國學院大栃木短大)

15:55 ~ 16:10

[3D-09]

中学校家庭科における作り帯と盆踊りを取り入れた浴衣着装体験授業の提案

*柴田 優子¹、牧野 晃子²、長島 未玖¹、弓削田 綾乃¹ (1. 和洋女大、2. ヒューマンキャンパスのぞみ高等学校)

口頭発表 | 口頭発表：家政教育

2025年6月1日(日) 15:10 ~ 16:10 会場 (都市科学部講義棟107)

家政教育

座長：川嶋 比野 (戸板女子短期大学)

◆ 若手研究者ポスター賞エントリー

15:10 ~ 15:25

[3D-06] 人生100年時代のライフプランを考える教材開発

高校生を対象とした人生設計のためのアンケートを実施して

*両頭 早希¹、松本 歩子¹、延原 理恵¹、片岡 愛² (1. 京都教育大、2. 京都教育大附属高校)

キーワード：家庭科教育、ライフプランニング教育、高等学校

【目的】高校家庭科教育では、人の一生について様々な生き方を理解するとともに、自らの生き方を見つめ、生涯を見通した生活を設計できるようにすることをねらいとしている。しかしながら、人生100年時代と言われる複雑な現代社会においては、多様なライフコースが存在しており、ライフプランに対する考え方も多様化している。よって本研究では、これからの時代における高校生へのライフプランニング教育のあり方を検討するため、高校生のライフプランに関する意識の実態を把握することを目的とする。【方法】家庭基礎を受講する高校生を対象にライフプランの意識や、将来への不安感等に関するWEBアンケートを実施した。有効回答数はA校141（男61、女78、他2）及びB校169（男87、女74、他8）。調査期間は2024年7月（A校）及び12月（B校）。【結果】仕事の継続や育児分担等、複数の項目でライフプランの意識に性別による差が見られた。また高校生は将来について多様な不安感を感じており、特に老後への不安感は、結婚するつもりがない者や、子どものぞまない者に高い傾向があった。今後の家庭科教育においては、性別役割分担意識を問い直すさらなる働きかけや、これまでの典型モデルとは異なるライフコースを選択する生徒へのフォローを行うことが期待される。さらに、アンケートの実施及び結果の共有がライフプランを考える教材として一定の効果があることも示唆された。

口頭発表 | 口頭発表：家政教育

2025年6月1日(日) 15:10 ~ 16:10 ⅢD会場（都市科学部講義棟107）

家政教育

座長：川嶋 比野（戸板女子短期大学）

15:25 ~ 15:40

[3D-07] 「責任ある行動」ができるエシカル・コンシューマーの育成 -高等学校家庭科におけるパフォーマンス課題を取り入れた実践とその効果-

*谷 昌之¹、大本 久美子² (1. 大阪府立天王寺高、2. 大阪教育大)

キーワード：家庭科、消費者市民教育、エシカル・コンシューマー、パフォーマンス課題

目的 家庭科における消費者教育は、消費者市民社会の主体となるエシカル・コンシューマー（倫理的消費者）の育成に大きく寄与している。知識習得だけでなく、責任ある行動を促すことをねらいとしたパフォーマンス課題を設定した実践を行い、効果を検証する。

方法 2025年1～2月に大阪府立A高校2年生9クラス（355名）を対象として家庭基礎（2単位2時間連続）において消費生活の授業を8時間実施した。内容は、1.ライフプランと家計管理、2.契約と消費者トラブル、3.課題の作成、4.課題の仕上げと発表、とした。単元を総括するパフォーマンス課題は「消費生活アドバイザーとして、中学生に『エシカル・コンシューマー』について5～10分のミニ講義を行う」とした。評価はルーブリックを用い、観点は、1.問題点や背景を盛り込めたか（問題意識）、2.課題解決のためのアクションを提案できたか（提案性）、3.内容や方法を工夫できたか（表現の工夫）、とし、各3段階の記述語を設定した。事前調査やパフォーマンス課題の生徒による相互評価、事後調査などを実施し、得られた成果物やデータを分析した。

結果 事前調査より、エシカル消費の取り組みについては知識、実践ともに低調であった。

「中学生に説明し、行動を促す」という課題を設定したことにより、エシカル・コンシューマーとしての知識習得とともに行動を具体的に想起できたことが、成果物や相互評価より確認することができた。

口頭発表 | 口頭発表：家政教育

2025年6月1日(日) 15:10 ~ 16:10 会場 (都市科学部講義棟107)

家政教育

座長：川嶋 比野 (戸板女子短期大学)

15:40 ~ 15:55

[3D-08] 地域連携型授業の導入と地域への効果—いちご学の創設

*山内 見和¹、真田 知恵子¹、仲田 郁子¹ (1. 國學院大栃木短大)

キーワード：地域連携、いちご学、家政学、短大生

目的 栃木市は平成27年10月より「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を制定し、その中に、地域コミュニティの維持として地域特産品学習指導を目標としている。そこで家政学の視点から、産官の協力のもと、講義にいちご学を取り入れ、地域連携に取り組んだ。その方法と導入後の地域関係者の意識の変化を報告する。

方法 栃木県はいちごの生産全国1位である。しかし、消費量は年々減少している。栃木市の協力により、栃木県農業総合研究センターいちご研究所、株式会社谷中農園などのご協力により、いちごの種類や生産方法の講義を導入した。また、本短大日本文化学科の協力により、歴史や文化などの講義もとりいれた。講義後、企業へのアンケートを行い、地域の意識の変化を調査した。

結果 1. 取り組み後、産業界から、いちごの生産は自然科学・農業の分野だけでなく、広報・マーケティングなど文系の視点から考えることにより、今後のいちご産業が広がっていくだろう、などの感想を得た。2. 新聞社、地域広報誌、ケーブルテレビなどのメディアに取り上げていただき、産物を通しての地域と短期大学のつながりを得た。3. さらに、地域住民の要望により一般市民向け公開講座“いちご学”を開催した。4. 学生の地域特産品への意識の変化が見られ、地域との継続的なかわりを持つ人材となることが期待される。以上、いちご学を導入したことにより、地域関係者の短期大学に対する意識の高まりがみられた。

口頭発表 | 口頭発表：家政教育

2025年6月1日(日) 15:10 ~ 16:10 ⅢD会場（都市科学部講義棟107）

家政教育

座長：川嶋 比野（戸板女子短期大学）

15:55 ~ 16:10

[3D-09] 中学校家庭科における作り帯と盆踊りを取り入れた浴衣着装体験授業の提案

*柴田 優子¹、牧野 晃子²、長島 未玖¹、弓削田 綾乃¹ (1. 和洋女大、2. ヒューマンキャンパスのぞみ高等学校)

キーワード：浴衣着装体験、作り帯、盆踊り

目的 中学校家庭科における浴衣の着装体験は着物文化の継承意欲を高め、文化への興味関心を喚起させる効果がある一方で、着衣の難しさや浴衣の動作性にマイナスイメージを持つことがある。限られた授業時間の中で、生徒が着衣技術を習得することは難しく、着衣ができない、または着衣ができて「難しい」「苦手」と感じることで嫌いになることもある。そこで作り帯を活用し着衣を簡易かつ短時間にした上で、着装した状態でアクティビティを取り入れた授業を提案することとした。

方法 中学校家庭科教員へ和服の着装体験実施についての実態および意識を調査した。次に、作り帯を使い、さらに着衣方法の動画を活用することによる着衣時間の短縮とその効果について、中学校における授業実践により検証した。また、着衣時間短縮によりできた時間に行う新たなアクティビティとして盆踊りを取り入れることを提案し、その効果について中学校における授業実践により検証した。

結果 作り帯と動画を用いたグループ学習は、生徒が苦手意識を持たずに生徒自身で着衣することを可能にすることがわかった。さらに、着衣時間が短くなったことで、着装をした状態で盆踊りをするなどのアクティビティの時間を確保することができ、和服に対して好印象を持たせること、より深く和服文化に触れる体験や教科横断型学習に繋がれることがわかった。